

ひらめき ときめき かがやく瞳 (め)  
「カラカラカラフル」  
～まほうのふででしゅるるるる～ん♪～

### 1. 設定理由

子どもたちは、日々いくつかの決まりの中で生活している。決まりを守ることは大切であるが、「〇〇でなくてはならない。」という考えを持ってしまうこともある。

そこで、図工の授業の中では、自由にダイナミックに活動する中で多くの事を気付かせたい。そして、友だちとの交流も深めさせていきたい。

本実践ではこれまでと違った経験をさせるために、筆による絵の具のはじき飛ばしの方法という今まで子どもたちが経験していない表現方法を与えることにした。それによって、身体全体を使い思い切り表現する楽しさを味わったり、色と色が混ざって新たな色ができる面白さにも気づかせたりできるのではないかと考えた。

### 2. 研究仮説

- (1) 普段図工で使っている紙の大きさや質を変え、今までにない道具の使い方をすることにより、身体全体を使って思い切り表現することができるであろう。
- (2) 使う色を赤・黄・青の三原色にすることで、色が混ざり新しい色が生まれたり、同じ色でも水の量で色が変わったりすることに気づき、新たな発想が生まれるであろう。

### 3. 研究内容

- 1 『魔法学校入学』魔法のお薬づくり (絵の具の量と水の量を調節して色を作る)
- 2 『魔法の呪文の練習』(筆を紙につけずに飛ばして描く)
- 3 『まほうのふででしゅるるるる～ん♪～パート1～』(身体全体を使って、ジャンボロール紙に表現する)
- 4 『まほうのふででしゅるるるる～ん♪～パート2～』(素材の質を変え〈布・障子紙〉描く)
- 5 『魔法学校卒業式』マイフェイバリット呪文 (自分が見つけたお気に入りをお友だちに紹介しよう)

### 4. 結論

- 子どもたちが普段使っている紙よりも大きなジャンボロール紙などを与えたことにより、身体全体を使って活動することができた。
- 筆を直接紙に触れないという条件をつけたことによって、今までの固定概念にとらわれることなく、新たな使い方(振る、叩く、吹く、垂らすなど)を発見することができた。
- 水の量によって濃くなったり、薄くなったりと発色の仕方が違うことに気付いた。
- 混色によって、新しい色ができることに気付いた。「青と赤で紫になる」「赤と黄色でオレンジになる」など。
- この活動を通して、自然に友だちと思いを語り合い、認め合うことができ、交流を深めることができた。造形遊びの体験を積み重ねていくことで、発想が豊かになったと考えられる。

ひらめき ときめき かがやく瞳 (め)

「カラカラカラフル」

～まほうのふででしゅるるる～ん♪～

## 1. 設定理由

### (1) テーマについて

子どもたちは、日々いくつかの決まりの中で生活している。決まりを守ることは大切であるが、「〇〇でなくてはならない。」という考えを持ってしまうこともある。図工の授業の中では、自由な発想で、自分の思いをダイナミックに表現させたいと思い、本題材にとりくんだ。

本学級は、1年生30人が在籍している。入学したばかりの子どもたちにとって、学校は多くのルールが存在し、「先生〇〇してもいい？」と聞いてから活動する子どもが多い。

造形活動においても同じことが言える。絵を描く活動では「クレヨンを使っていいですか？」「〇〇の色で塗っていいですか？」と確認する子どもたちが多し。また、友だちの作品を見て「ここは〇〇じゃなくちゃいけないんだよ。」と自分の思いと違うことを認めることができない子どもたちもいる。「〇〇ちゃんが見てきます！」「〇〇くんがぼくのまねをします！」という場面もしばしばみられる。そこで身体を使って思い切り表現できる造形遊びとして、砂場での活動にもとりくんだ。個々で活動する子どもたちが多かったが、その中でも友だちとの関わりを持ち、楽しく活動する姿も見られるようになってきた。

以上のことから、今回のとりくみでも子どもたちが自由にダイナミックに活動する中で多くの事を気付かせたい。そして、友だちとの交流も深めさせていきたい。さらに、自分の活動が友だちにも広がっていくように、友だちの良いところも取り入れつつ、協力し合う活動にしていきたい。みんなで活動することで、一体感や達成感も味わうことができるのではないかと考える。

1年生の多くの子どもたちは「筆は線や絵を描く物である」と考えている。そこで、筆による絵の具の弾き飛ばしの方法という今までに経験していない表現方法を与えることで、固定概念にとらわれず、身体全体を使いダイナミックに表現する楽しさを味わわせたい。また、色と色が混ざって新たな色ができる面白さにも気づかせていきたい。

## 2. 研究仮説

(1) 普段図工で使っている紙の大きさや質を変え、今までにない道具の使い方をすることにより、身体全体を使って思い切り表現することができるであろう。

紙は、ジャンボロール紙や布、障子紙を使用する。大きな紙を使用することで、ダイナミックな表現をすることができると思う。材質や色を変えることで、新たな気づきが生まれ、生き生きと活動するのではないかと考える。道具は、絵筆だけではなく土間ぼうきや柄のない自在ぼうきを提示する。それにより、紙同様大きな物を使うことで、思い切り表現することができると思える。

(2) 使う色を赤・黄・青の三原色にすることで、色が混ざることにより新しい色が生まれたり、同じ色でも水の量で色が変わったりすることに気づき、新たな発想や思いが生まれるであろう。

赤・黄・青に限定したのは、新たな色の変化に気づきやすいと考えたからである。さらに、水の量や混ぜる絵の具の量を変えることにより、色の違いが生まれることにも気づかせたい。

### 3. 研究内容

#### (1) 研究の流れ

## まほうのふででしゅるるるる〜ん♪

「今から『魔法学校』に短期入学することになりました。」と投げかけ、様々な魔法をかけるときに使うのは魔法の杖ならぬ、魔法の絵筆を使用することと、呪文を唱えながら魔法をかけることを約束とした。これから多くの魔法をかけていくというように場を設定した。

1『魔法学校入学』魔法のお薬づくり（1時間）【活動場所：図工室】	
ねらい	・ 絵の具の量と水の量を調節して色を作ることができる。
内容	・ 赤、青、黄の3色を混ぜて新たな色を作る。 ・ 筆を紙につけずに飛ばして色を試す。
使用した物	・ 魔法の筆（個人用の絵筆）・9切画用紙1枚・赤、青、黄の絵の具（三原色） ・ 透明のプラスチックコップ

2『魔法の呪文の練習』（1時間）【活動場所：図工室】	
ねらい	・ 筆を紙につけずに飛ばして描くことができる。
内容	・ 筆を紙につけずに飛ばし方を工夫して描く。 ・ 赤、青、黄の3色を混ぜて新たな色を作る。
使用した物	・ 魔法の筆（個人用の絵筆）・9切画用紙1枚・赤、青、黄の絵の具（三原色） ・ 透明のプラスチックコップ

3『まほうのふででしゅるるるる〜ん♪〜パート1〜』（1時間）【活動場所：校庭】	
ねらい	・ 身体全体を使って、ジャンボロール紙に表現することができる。
内容	・ 大きな紙に飛ばし方を工夫して表現する。
使用した物	・ ジャンボロール紙クリーム色（幅900mm×長さ10m）・絵筆（個人持ち） ・ 土間ぼうき・柄のない自在ぼうき・バット・ゼリーカップ・赤、青、黄の絵の具 ・ カーペット

4『まほうのふででしゅるるるる〜ん♪〜パート2〜』（1時間）【活動場所：校庭】	
ねらい	・ 素材の質を変える（布・障子紙）ことによって現われた表現の違いに気づき、楽しみながら活動することができる。
内容	・ 大きな障子紙や布に飛ばし方を工夫して表現する。
使用した物	・ 障子紙・布（布団シート）2枚・絵筆（個人持ち）・土間ぼうき ・ 柄のない自在ぼうき・バット・ゼリーカップ・赤、青、黄の絵の具・カーペット

5『魔法学校卒業式』マイフェイバリット呪文（1時間）【活動場所：図工室】	
ねらい	・ 自分が見つけたお気に入りの紹介し合うことにより、ものの見方や感じ方を広げることができる。
内容	・ 表現したものを見て自分のお気に入りを見つける。 ・ 自分が見つけたお気に入りの友だちに紹介し合う。
使用した物	・ 活動に使ったジャンボロール紙、障子紙、布

(2) 研究の実際 (緑: 子どものつぶやき 青: 教員のなげかけ 赤: 活動の様子)



# 魔法学校入学

魔法の筆の使い方を知り、お薬づくりをしよう!

ジャーン!!

うっとりブルーと  
メラメラレッドと  
キラキライエローの3つを  
準備しました!

すてきな魔法がかけられる  
自分だけのお薬を  
作ってみよう!

青と黄色で  
緑になった~

わぁ!  
ぶどうジュースみたい!

筆を回して最後は手前から  
手首のスナップをきかせて。

紙の上でも  
魔法の薬が混ざった~!

すごい!  
てんてんになってる!  
魔法の薬がここで  
混ざってるよ!  
色がいろいろあって  
きれいだね!

筆をたててぽたぽた  
お薬を垂らしていた。

きゃ~冷たい!

筆ではなく、手を思い切り  
使って飛ばしていた。

薬を水で薄めすぎ  
ると、魔法の跡が  
見えにくくなる。  
お薬の効果が弱ま  
ることに気づいた。

あれ...  
あまり見えない

- ・ 3種類しかないお薬で  
色々なお薬を作ることが  
できた。
- ・ お薬として使うにはある  
程度の濃さがないと効果  
が現れないということに  
気がつくことができた。



# 魔法の呪文の練習

いろんな魔法のかけ方を試してみよう！

魔法の呪文の練習をします！魔法のかけ方の練習をしましょう。

筆をたたいてみよう



筆の柄をたたいて飛ばす

筆を立てたまま上下に振る



トトトト

上から思い切り振り下ろす



思い切り飛ばすぞ

僕は手でやってみるぞ

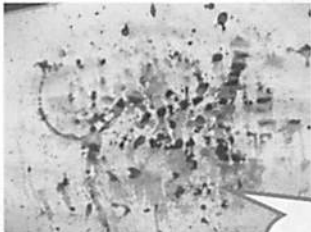


筆でなく手を使って手首を叩きながら飛ばす

下から思い切り振り上げる



緑になっている！



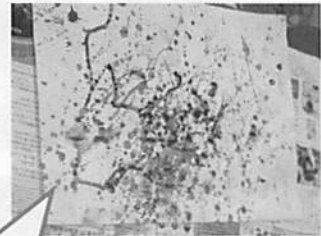
机に叩いてみよう

筆を机に当てて飛ばす



吹いてみたらどうなるかな

筆に息を吹きかけて飛ばす



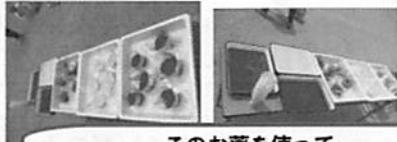
オレンジができた！

- ・同じ色を使っても、魔法のかけ方で色々な模様ができることに気がつくことができた。
- ・自分が考えた魔法のかけ方だけでなく友だちが楽しそうにしている魔法のかけ方も試すことができた。
- ・積極的に様々な方法を真似しながら、新たな魔法のかけ方を見つけ楽しむことができた。
- ・時間の最後に作品を見合う中で自然と素敵な所を見つけることができた。友だちの素敵な所も見つけて、認め合うことができた。（「花火の世界だ」「星の世界みたい」）
- ・前は水が多くて見えなかった魔法の跡がはっきり出ていたので「濃くてきれい」「色々な色が混ざってきれい」というような発言が多かった。
- ・「他の薬も使って魔法をかけたいな」「みんなで魔法をかけたらどうなるんだろう」という声を受けて、次回は魔法学校の卒業制作として、最後にみんなで魔法をかけてみることを伝えた。

# まほうのふでしるるるる〜んか〜パート1〜

今までの練習の成果を生かして、  
外で思いっきり魔法をかけてみよう！

まずは、思いっきり魔法をかけるために  
魔法ワンピース（ビニル袋）に  
着替えてもらいます。  
着替え終わったらいざ、校庭へ！



このお薬を使って  
たくさん魔法を飛ばしてみてください

緑でやろう

何色にしようかな？

赤と黄色混ぜてみよう

ふぉ〜！

何この色？

ふぉ〜！

立ち上がって  
思い切り振り下ろす

何か黒！

黄色より赤が目立つよ

やぁ！

わぁすげー！

思い切り振ったら  
カップからお薬が  
こぼれてしまった。  
その模様の面白さも  
発見していた。

おりゃっ！

手首のスナップをきかせて  
大きく筆を振っている

立ったままお薬を  
ポタポタ落としたり、  
走りながら筆を  
振って落としたり  
していた。

でかっ！

うわぁ！

え〜っ

今日は特別な紙を持って来ました！  
ジャンジャンジャンジャン〜んか  
まだまだ…まだまだ…  
伸ばして伸ばして。

それっ！

2組の魔法使いのみなさん、ちょっとみんなの魔法の足跡の周りに来てください。どうです？みなさんの魔法の跡。

なんかすご〜い！

魔法使いといたら…

イエ〜イ！

魔法アイテムその2  
四角いほうきステッキと  
空飛ぶ魔法のほうき

ふう〜っ

ほうき！

ほうきでも魔法を  
かけちゃいたいと思います

思い切り上から振り下ろす

振りながら走る

ゴルフのスイングのように

四角いステッキを横に振る

歩きながら振り下ろす

おりゃ〜

ほうきより絵  
筆の方が使い  
やすい様子の  
子どももいた

2組の魔法使いのみなさん、色々なアイテムでたくさん魔法をかけたけどどれが好きでしたか？

友だちと一緒に

大きな画用紙にたくさん魔法をかけました。次の時間は、ちょっと違うものに魔法をかけてもらいたいと思います！

ほうきでやると1回でいっぱい飛び散るからいいなと思いました

四角いほうきだといろんな所に飛ぶから面白かったです。

なんだろう？

校庭の砂！？

なんかきれいだね

筆は軽いから色をつけやすくていいと思う。

休み時間中

きれいじゃない？ここ

ここ、色が混ざってる！



# まほうのふでしゅるるる〜ん!〜パート2〜

2組の魔法使いのみなさん、お待たせしました!  
 続いては…大きな画用紙ではなくて薄い紙  
 障子紙にも魔法をかけてもらいます。



さらに紙だけではなくて、  
 布にも魔法をかけてもらおうと思います。



よっしゃ!  
 いくぞ!



しゅるるーん!

シーツ(布)



お布団みた〜い



鉄棒にかけてある布によく集まっ  
 いた。絵筆を使って飛ばしていた。



そ〜れ〜!



地面に置いた布には、ほうきを使って  
 魔法をかける子どもが多かった。



障子紙



障子紙ではにじむのを楽しみながら、  
 色を重ねている子どももいた。



えいっ!



僕にもいっぱい  
 魔法がかかった!

- ・大きな紙や布を準備することによって思い切り体を使って活動することができた。
- ・前時までの経験を生かして、活動することができた。



# 魔法学校卒業式

自分のお気に入りの魔法の跡を見つけよう

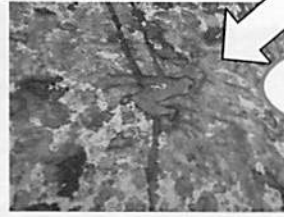
## ジャンボロール紙



なんだか世界中の  
地図みたい！

さめた！

くによくよくによ  
って魔法だな！



うまそ〜って！  
よだれがたれてる！

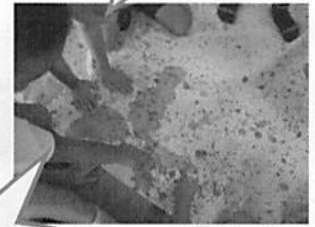
金魚！

ドカンドカ〜ン

ここは  
びよんびよんって感じ！



火山が爆発してるみたい  
じゃない？



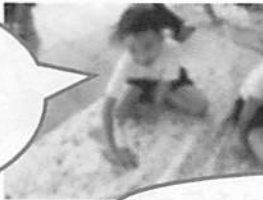
ドロドロドロ...

エビフライ！

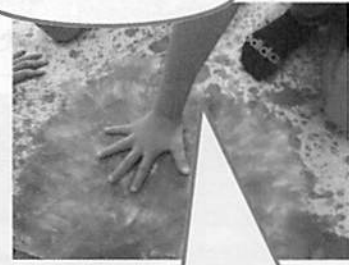
## 障子紙

オーロラパワー！

手の形にびっ  
たり！  
魔法のパワー  
をチャージ！



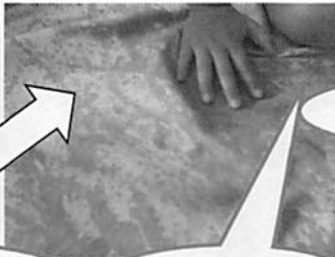
宇宙の世界みたい



なんか吸い込まれていきそう

## シーツ (布)

優しい色だ  
から好き！



波だあ〜

薄い色が混  
ざってる！

雨がふってるみ  
たい

見て！ピンクに  
青に黄色に...



うみ〜！！

- ・同じものを見て、違う意見がたくさん出ることにより、見方が広がった。
- ・自分の好きな色や形からたくさんの見立てを楽しんでいた。

#### 4. 結論（○成果/▲課題）

##### 素材の与え方

- 小さな紙から大きな紙に段階を踏んで活動させたことで、どの時間も意欲的に活動することができた。
- 大きなジャンボロール紙を与えたことにより、身体全体を使って活動することができた。
- 障子紙を使った際は、にじみによる広がりを楽しみながら活動することができた。
- 鉄棒にかけた布に興味を示し、多くの子どもが絵の具を飛ばしていた。大きさや質を変えるだけでなく、素材の与え方を変えることで子どもたちの活動の幅を広げることができた。

##### 道具について

- 直接紙に筆を触れないという条件をつけたことによって、新たな筆の使い方（振る、叩く、吹く、垂らすなど）を発見することができた。
- 色作りの時に透明のプラスチックコップを使ったことで、色の変化に気づきやすく意欲的に活動することができた。
- ▲大きな紙に表現させるために、ほうきや自在ぼうきの先を準備したが、絵の具を飛ばす道具としては1年生にとって使いづらかった。軽くて振りやすい絵筆の方が今回の活動には適していたと考えられる。

##### 絵の具の色について

- 混色によって、新しい色ができることに気付いた。（「青と赤で紫になる」「赤と黄色でオレンジになる」など。）
- 水の量によって濃くなったり、薄くなったりと発色の仕方が違うことに気付いた。
- 紙の上でも色が混ざることを見つめることができた。
- 紙の上で混ざった色を見て、優しい色や怖い色など、色の表情ができることに気付くことができた。
- 同じ色の絵の具でも、使用する紙や布の色によって色の見え方が違うことに気付くことができた。

##### 全体を通して

- 子どもたちの新しい発想や認め合う姿が、他の教科や日常生活の中でも見られるようになってきた。
- 「魔法」という言葉を使うことによってどんな工夫でも認められ、一人ひとりの子どもが自由に発想を広げることができた。
- 魔法の呪文を唱えながら活動したことで、言葉と動作が結びつき、表現の幅が広がった。
- この活動を通して、自然に仲間と思いを語り合い、交流を深めることができた。造形遊びの体験を積み重ねていくことで、豊かな発想ができるようになった。
- ▲汚れを気にせず思い切り活動できるように大きなビニール袋を着せて活動させたが、通気性が悪く、裂けやすいので、不向きだった。幼稚園の時のスモックやおとなのシャツなど布にした方が良かった。

# 資料編



① まほうをやらしたらもっときれい  
 になっただけよ。  
 いらはばいませたらすごい  
 きれいだった。  
 まほうをやってたら  
 まほうが  
 けあったよ。  
 たのしかった。

なまえ



② まほうは「きらきらリン」って  
 たのしかったのよ、おくす  
 りをまぜるとまほうをかけ  
 るのがたのしかった。すごい  
 まほうのぬのにま  
 まほうをかける  
 のがたのしかったよ。

なまえ



③ えのくいであそぶのがたの  
 しかった。まほうまであそぶの  
 がすきになりました。  
 まほうまであそぶのがたのし  
 くてあつちいかにみよにおおま  
 かのまほうがたの  
 しかったです。  
 い、お、いあそんで  
 たのしかったです。

なまえ



④ あおとあつちいむらじま。  
 あおとあつちいむらじま。  
 あおとあつちいむらじま。  
 くまのつくるのがたのしかった。  
 じむもんがとどなるのがたのしかった。  
 まほうがころかたの  
 あおのぬのにま  
 んがてきたよ。

なまえ



⑤ ふででまほうをかける  
 いろんなかたちになるのが  
 おもしろい。まほうが  
 とぬのまほうは、い  
 るのがたのしかった。  
 まほうが  
 たのしかった。  
 たのしかった。

なまえ



⑥ まほうが、ころかたのしからたです。  
 せんせいといっしょにやると  
 まほうの、くまをきてそとでまほう  
 を、い、まわしているんなし  
 んをいって、いらはばいませ  
 というじむもんをいって  
 まほうが、ころかたの  
 たのしかったです。  
 またまほうをやりたいです。

なまえ





⑦ おんばのこゝかモカいてみ  
たいな。ぬるところが  
すごくたのしかうた。  
すごくたのしかうたよ、また  
やりたいよ。  
ほうきでぶくも  
からる、るだうたよ。  
はおともかいてみた  
いな。

なまえ



⑧ くすりをつくら、こいどろじか  
すきたいな、くすりかいて  
たのじたのしかうた。  
おとほりよとがほりぎのすきとか  
てい、うたはら  
のしかうた、お  
おとほりよとが  
か、おもしろからうた。  
いな。

なまえ



⑨ さいしよは、どんなえにな  
るのかたのしみでした。  
かきおあったらびくりに  
しました。みんながかわいた  
えがきれいで  
びくりにしました。  
すごくたのしかうた。  
ありがとうございませ

なまえ



⑩ まほうをやるときがたのしかうた。  
まほうをやるのか、たのしかうた。  
もともぬりたかうた。  
きいろいかわか、きれい  
だ、いろが、とても  
きれいだうた。

なまえ



⑪ ずこしつでおくすりをみず  
どうすめたらいろがうすくた、  
おもしろか、お  
まほうのじゆもんをいろんな  
じゆもんをたした、  
そとでつぎは、  
しまうぎでやて  
みたらどうなる  
のか、お。

なまえ



⑫ ももまごをみた、お  
おまごをみた、おまごをみた、  
おまごのいろにかいてみた、おまごのいろ  
おまごのいろにかいてみた、おまごのいろ  
おまごのいろにかいてみた、おまごのいろ

なまえ

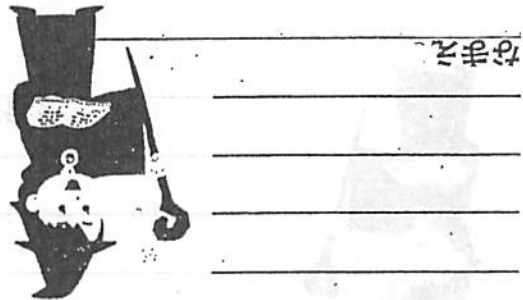




なまえ

そとでくわいせいのしんがた。  
またまはうをいいてまうた。  
うてえのいれたいで。  
まほうてふてふとふま  
たてた。

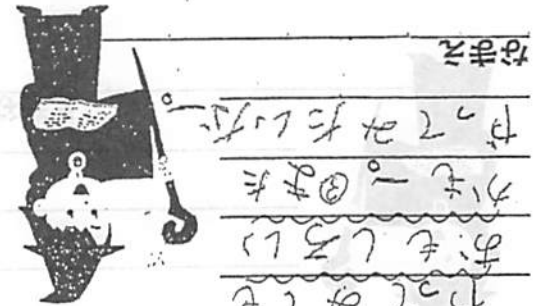
17



なまえ

ほうまてまほうをたかか  
たかかた。まほうの  
うてまほうをたかか  
たかた。

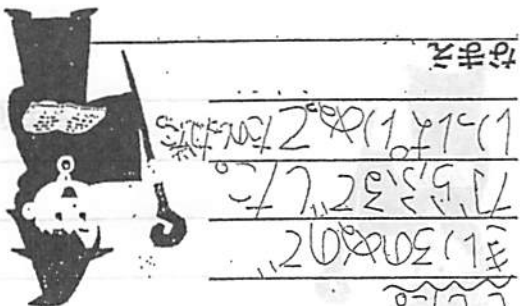
18



なまえ

ころにまいて、  
いりる人たふにたて  
おまふるかた。  
おまふるかた。  
たてあて  
おまふるかた。  
かまふ。  
たてあて

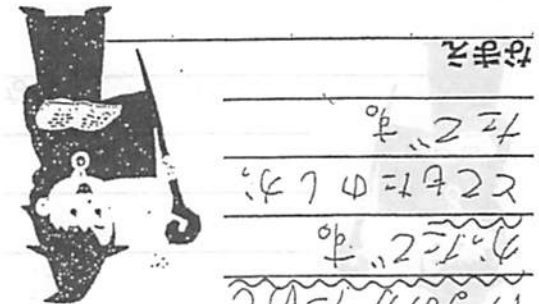
15



なまえ

まほうてまほうをたかか  
たかかた。まほうの  
まほうてまほうをたかか  
たかかた。  
まほうてまほうをたかか  
たかかた。  
まほうてまほうをたかか  
たかかた。  
まほうてまほうをたかか  
たかかた。

16



なまえ

こまふるかた。  
たかかた。  
たかかた。  
たかかた。  
たかかた。  
たかかた。  
たかかた。  
たかかた。

13



なまえ

まほうてまほうをたかか  
たかかた。  
まほうてまほうをたかか  
たかかた。  
まほうてまほうをたかか  
たかかた。  
まほうてまほうをたかか  
たかかた。  
まほうてまほうをたかか  
たかかた。

14

19

またおおきいかみでや  
りたい。いろんないろか  
あってたのしかつた。みどり  
とおおやあかまませ  
てらへんだ  
あじなったり  
おもしろいす  
ごつたのしかつた。

なまえ



20

みんなの  
きれいな  
おおきな  
えが  
きれいな  
きれいな

なまえ



21

あかほみかめたまよひんくにな  
うきおもしろかつた。おおとく  
すりのきれいなあかききれいな  
すごかつた。あとおおいいいろ  
もきれいですごかつた。

なまえ



22

まほうのくすりをまぜるとこ  
ろがたのしかつた。まほうのくすりを  
まぜるといろんなあかだちま  
あつたのしかつた。

なまえ



23

そとであそぶのがたのしかつた。

なまえ



24

くすりをつくったり  
いろんまぜてたのしかつた  
です。

なまえ



25

しるしるのまほうがすごく  
 たのしかった。じゅもんがあつた  
 ほうきで、しほんしほんきりぎり  
 いうんぱしもんがたのしいお  
 せんせいさん  
 はしをみ  
 んなでかきた  
 いな

なまえ



26

いろいろいろをいまげるから  
 たのしかった。じゅもんがあつた  
 からおもしろかった。いろいろなもの  
 であつたからおもしろかった。  
 こんどはでかいおでかい  
 たいほうまでふる  
 のがたのしかった。

なまえ



27

おおくぬったらいろがうすくな  
 ておもしろかった。すのびなな  
 であつたのがおもしろかったです。  
 しおきでいろをぬったのがお  
 もしろかったです。  
 こんどもまた  
 やりたいな  
 なあ

なまえ



28

かみにまほうかけるのか  
 たのしかった。またかみにまほう  
 をやりたいな。またそとでおお  
 きいかみにまほうをやり  
 たいな。まほうの  
 くすりをつくるいき  
 ちがういろ  
 になつたのしかった。

なまえ



29

ほうとでしもんをかけるのがおも  
 しろかったです。くすりをつくるのが  
 おもしろかったです。そとでしもん  
 をかけるのがたのしかった。こ  
 まほうがうらやまのしかった  
 でした。またやりたい  
 です。

なまえ

